
危険な彼氏！？

o0_由凜_0o

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

危険な彼氏！？

【Nコード】

N7139I

【作者名】

00 | 由凜 | 00

【あらすじ】

早月高校1年の緑山有紀はごくごく普通の地味な女の子。

その地味さが原因で中学生の頃いじめられていた有紀は男の子に恐怖心を抱いていた。

しかし、初登校の日。

緊張していた有紀に話しかけてくれた一人の男の子がいた。

話を聞いてみるとその人はいつもマジメで優秀な人。

有紀と全くジャンルが一緒だったのだ。

有紀はその共通点があることに驚き彼に密かに興味を持っていた。

2人の気持ちはどうなるのか・・・。

1 出会い（前書き）

みなさんこんにちは。由凜といます。

初投稿となり、ものすごく小説が下手です。

とても読みづらいとは思いますが、がんばりますので、最後までご覧頂けたらうれしいです。

1 出会い

「きゃあああああああああ合格!!!!!!」
ある高校の合格発表。

その舞台には、高校合格という4文字を頭に思い浮かべながら、ある意味「夢」というものに向かっている人たちがいる。
とある普通の少女、緑山有紀その一人であった。

「うるさつ……。また他の人が合格したのかぁ……」

彼女は、普通の人とは何も変わらないただの人間。
でも、一つだけ、少し違うことがある。

それは……………

地味でいじめられていたということ。

そう、彼女は今、それがトラウマとなり、男子を見ると怖くなってしまふのだ。

それだったら女子校に行けばいいのに……………

有紀は自分の実力に合わない高校は受験しなくなったらしく、市内の名門高校、早月高校を受験した。

そして有紀の結果は……………

「……………合格したっつ!」

この運命の日から、変わったのは学校だけじゃない……………

有紀の気持ちも……………変わっていく。

そして、初の登校日。

「わ……。私服で学校に行くのって小学校以来だな……。」
初登校ということに浮かれていたのは有紀だった。

そして、浮かれていた有紀は隣に立っている男の子に興味を持った。
（……。うわ……。めっちゃかつこいい……。メガネも超似合っ
てる！！私服か。学校行つてないのかな……。？）

その男の子の姿は私服にリュックサック。

もしかしたら、同じ学校なのかもしれない。と有紀はふと思った。

（あ……。バス来た。）

そんな風に軽く考えながら、有紀はバスに乗車した。

（音楽でも聴くかなあ）

暇だった有紀は音楽を聴こうとしていた。

その近くでは、さっきの男子とその友達の会話が繰り広げられてい
た。

『久しぶりだなあ！お前。高校どこだっけ？』

「おお！なんかさあゝなかなか高校受かんなくて。」

『今までで一番苦労したよなw』

「いえてる！！まあギリギリ榊原高校なんだけどさあ」

『全然いいとこじゃん！』

「まあな。で、お前は？」

『俺？俺は……』

……。……。……。……。……。早月高校。」

せつかくの有紀のあこがれの男子の高校を聞けるチャンス。

有紀はどでかい音楽のせいでそれを逃してしまった。

しかし、そんな有紀にも幸運が訪れる……。

そして高校。

席は適當。

有紀は中学校のなかで特別頭が良かったため、同じ中学校の子はごく少数だった。

そのため、隣に鞆をおき、席に着いた。

「あゝ緊張するよお……。男子……。いじめてこないかなあ」

「あ……。あの。」

後ろから聞こえてくるのは男の声。

思わず有紀の背中が凍りつく。

「一緒に話ませんか？」

「え……。ええ？」

有紀は男の少し照れている笑顔に少し心が惹かれた。

（なんか見たことある……。）

「ハハッ……。なんか君緊張してるみたいだし。」

「え！？なんで分かるんですか？？」

「分かりやすいねw僕の名前は……。井本一磨。きみは？」

「わ……。わたし？緑山……。有紀。」

「緑山さんか。よろしく。」

「うとうとう……。うん。」

有紀は井本とは不思議と話しやすかった。

「俺、中学校の頃地味だったし、マジメ系だったから、よくいじられてたんだ。」

「ほんと！？私もだよ！うざいよねえ」

「ああ。もうこりこり！」

こんな共通点を持つ2人。話も合うはずだ……。

その晩。有紀宅。

「う~~~~~！疲れた。つか井本君しゃべりやすいなあ・・・。どうしたんだろ私。」

『井本君って誰???』

「お母さん！お帰りなさい」

『ただいま。クラスメートの子?』

「うんそうなの。男嫌いの私でも話しやすいの。」

『あら、そう！そんな子に有紀の彼氏というものになってほしいわねえ』

「何いつてんの！お母さん／＼／＼／」

『まあ、男子の誰もが乱暴って訳じゃないと思うわ。あなたが落ち着ける男の子と会う事ね』

「・・・うん。」

『そういえば・・・なんか、ウチの前にメガネかけた男の子いたけど・・・。』

「え・・・!?嘘でしょ!?!」

バアン!!有紀は思い切り飛び出していった。井本であることを信じて。

そこには・・・・・・

メガネをかけていない男の子が立っていた。

『・・・あ、緑山さん。』

顔は美形でカラコン入れている。腰パンをしていて、ポケットには手をつ込んでいた。明らかにチャラ男。

「・・・誰?・・・!!その声は!」

『せーかい。井本。』

「本当に!?!・・・メガネかけてる姿をお母さんは見かけてたけど・・・。」

『窓から緑山さんが覗いてたら気付いてくれるかなあ・・・。思っ
て、メガネかけてた』

「ふーん・・・。ってそれだけじゃないわ!!」

『なに？』

「その格好は何！？」

『何って……』

あ、学校の時のキャラはダミィ。

ホントの俺は……こっち。

「え……？」

『

1 出会い（後書き）

1 話目からグダグダすみません；；

見た方死んでませんカー？w

2 話もがんばりますので、よろしくお願いします！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7139i/>

危険な彼氏！？

2010年10月15日08時12分発行